

**2010.4.20 現代日本論演習 (田中重人)**

**第2講「SPSS 入門・データ配布」目次**

- 1. データの配布**
- 2. 標本抽出**
- 3. SPSS のウィンドウ構成**
- 4. 変数値の再割り当て**
- 5. 出力の読みかた・印刷**

# 【データの配布】

1995 年 SSM 調査 B 票の一部

全国から 70 歳以下の有権者を

層化 2 段無作為抽出

訪問面接法

cf. (2000) 『日本の階層システム』(全 6 巻)

東京大学出版会。

# 意識項目と基本的属性に限定

(調査票の×印はデータセットにない項目)

250 ケースをランダムに抽出

流出しないように

変数ラベルは菅野剛

(日本大学) 氏による

**毎回の授業で使うので、  
忘れないこと（調査票も）  
期末レポート提出時に返却**

## 【無作為抽出】

母集団から計画標本を選ぶ際に、  
母集団にふくまれる すべての個体  
の抽出確率が等しくなる ように  
抽出する (random sampling)

→ 「**確率標本**」

**つぎの条件が必要：**

**母集団の人口が既知**

**個体を網羅した「台帳」**

**個体によって抽出確率が違う場合も、事後的に調整して**

**等確率標本と同様の統計処理をおこなうことは可能**

**「台帳」が完備していない状況でも、工夫次第で**

**無作為抽出に近づけることができる**

# 統計的な推測は、**確率標本を前提とする**

実際の調査で理想的な標本抽出ができることはまずない。

また計画標本のなかから無効回答があるので、

無作為ではない誤差がかならず発生する。

この誤差は**統計的には処理できない**ので、個別に推測する

- どの層を過剰に代表しているかを把握する
- おなじ母集団を対象にした調査と比較する

## 【層化 2 段無作為抽出】

- まず「**地点**」を抽出（第 1 次抽出）
- その際、地域・都市規模等で地点抽出数を割り当てておく（**層化**）
- その地点の台帳から**個人**を抽出（第 2 次抽出）



# 【データ・セット】

ケース × 変数

変数は変数名で管理

変数名以外に「ラベル」

無回答などの欠損値 (.)

# 【SPSS のウィンドウ構成】

データ・エディタ

シンタックス・エディタ

出力ビューア

# 【メニューとシンタックス】

分析手法をえらぶ

必要なオプションを指定

「貼り付け」をクリック

シンタックスの必要部分を選択して実行 ( ▶ )

# 【出力ビューア】

左側に目次、右側に出力内容

エラー表示もここに出る

# 【印刷】

左側の目次で選択

出力先の切り替え

印刷前にプレビュー

電源の入れかた

ジョブの確認・取り消し

タイル印刷 (2面, 4面, ...)

## 【変数値の再割り当て】

データエディタのメニューバーで

「変換」 「値の再割り当て」

「他の変数へ」

変換先変数の名前をつける

**「今までの値と新しい値」**  
**値の組を指定したら「続行」**  
**シンタックスを貼付けて実行**  
**新変数の度数分布を確認**  
**問題がなければデータセット**  
**を保存**

## 【実習】

満年齢 (Q1\_2a)を 10 才刻みに区  
切って  
度数分布表を出力し、印刷して提  
出

# 【その他のアプリケーション】

文書作成 (Word)                      表計算  
(Excel)  
電卓 (アクセサリ)

SPSS の出力ビューアから表を  
Excel や Word に貼り付けられる